



協力：ホビージャパン



ジオン公国軍宇宙戦用
量産型モビルスーツ
MS-09R「リック・ドム」
1/100スケール
マスターグレードモデル

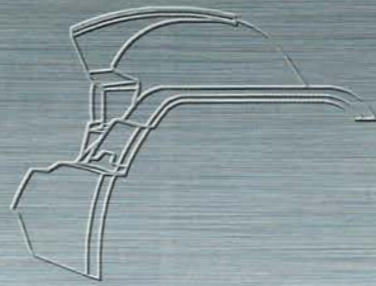
MS-09R RICK-DOM
PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT



MOBILE SUIT
MS-09R

RICK-DOM

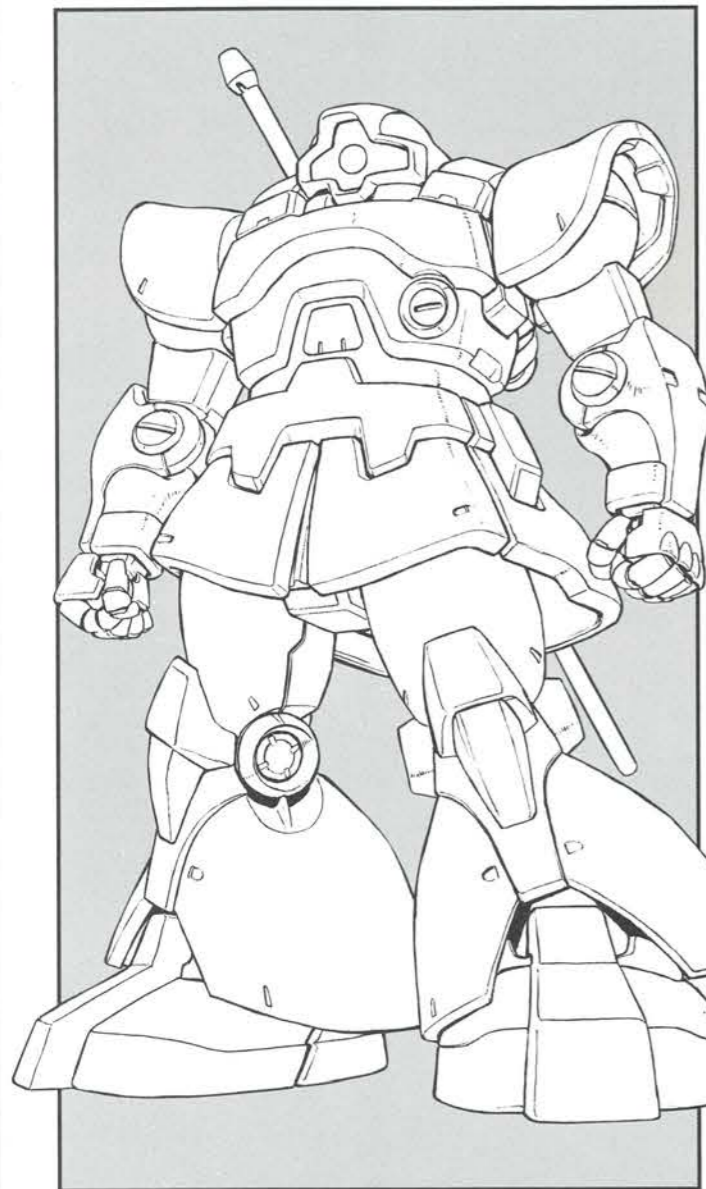
PRINCIPALITY OF ZEON
MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT



ジオン公国軍宇宙戦用
量産型モビルスーツ
MS-09R「リック・ドム」
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 1999 MADE IN JAPAN

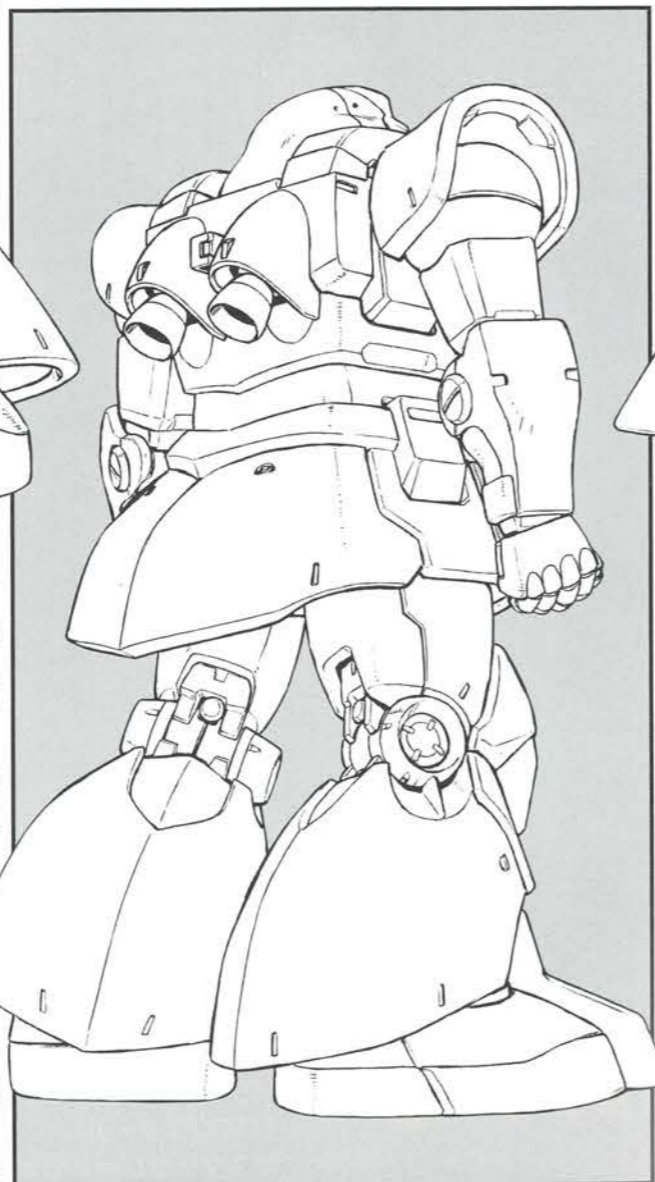




という新たなカテゴリーを産み出していた。ZIMMAD社は、機動装備のほぼ全てを空間戦闘用の装備と換装することで、06R型に匹敵するスペックに高めたのである。つまり、本来は機体スペースの多くを占めていた地上での稼働に必要な各種の装備を宇宙用の装備と換装することで、プロペラントの増量とバーニアスラスタの出力強化などをクリアし、コストや生産性などを含むトータルスペックで、当時最高水準の機体であるはずの06R-2を降したのである。それに伴う設計変更も微々たるもので、基本フレームにはほとんど手を加えることなく、軍の要求値を達成したのだ。ある意味、ドムのベースデザインは、自重を支える必要がない宇宙空間での運用において、その真価を発揮したと言えることでもできるだろう。加えて、Dタイプ以外のドム系の機体は、軌道上に展開する部隊への配備や生産ラインをそのまま振り分けることが容易だったという事情もあったらしい。実際、ZIMMAD社の09系の機体の開発拠点は、ジオン本国やグラナダの工廠を始めとする宇宙に多く存在していたというメリットもあったのである。

一方のZEONIC社は、次期主力機用のビーム兵器開発が遅れていたため、この裁定に従ったと言われている。もっとも、この時期になるとメーカー間による競争などもほとんど形骸化しており、後のMS-14とMS-15の競争にしても単なるセレモニーに過ぎず、リック・ドムの採用は、両社ともに納得すくだったとされている。

MS-09R RICK-DOM



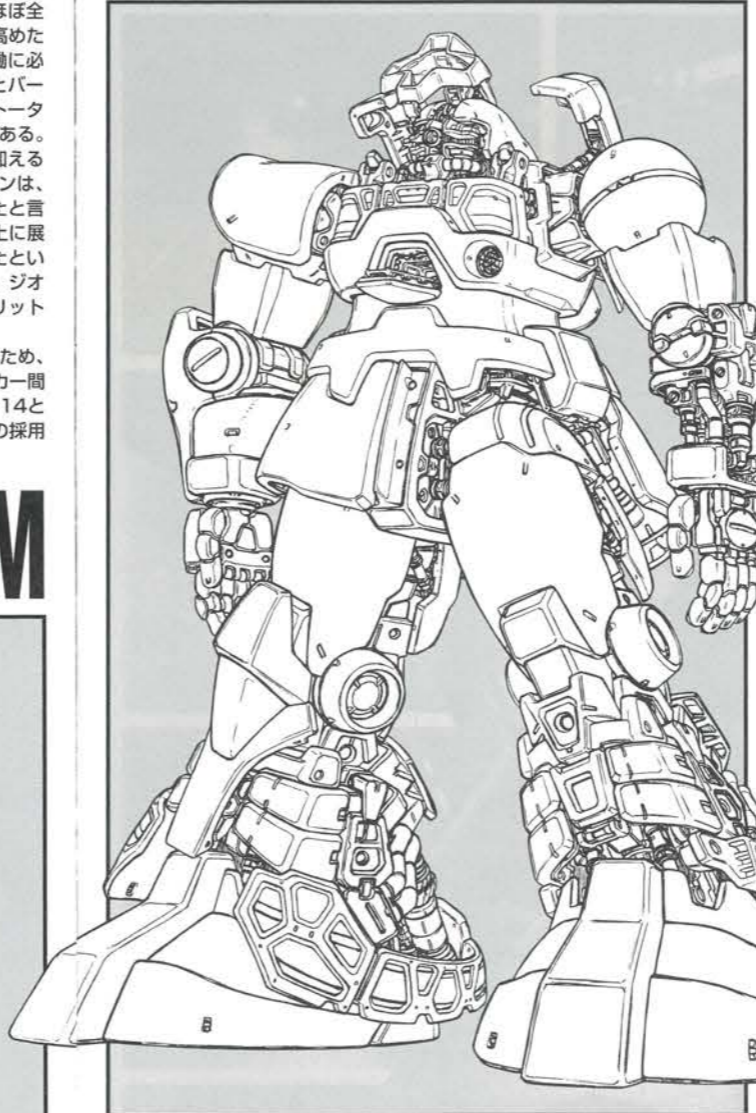
Conceptual illustration : Hajime-Katoki

U.C.0079年09月18日。開戦以来長く続いていた膠着状態は「ガンダム」の出現によって終わりを告げた。新兵器モビルスーツ（以下、MS）の実戦投入によって公国軍が得ていた優勢は揺らぎ、戦局は大きく動こうとしていた。

当時、公国軍において次期主力空間戦闘用MSとして提出されていたプランは、大きく分けて2つあったと言われている。ザクの最新型である06R-2タイプと新設計のMS-11である。MS-10は09系の発展型で、MS-12、13は、ジャブロー攻略を主目的とする要塞攻撃用の特殊MSだった。そこに、連邦軍のRXタイプMSの出現により、軍の要望として「ビーム兵器を運用可能なMS」という新たな要素が加わり、MS-11計画はMS-14計画にスライドした。ところが、MSが運用可能なビーム兵器開発の目的が立っていないため、次期主力MSの開発スケジュールは先送りされ、その間隙を埋めるため、生産性の高い空間戦闘用MSの量産が決定したのである。それが、本来は陸戦用の機体として開発されたドムの空間戦闘仕様機、MS-09R、いわゆるリック・ドムである。

当時ZEONIC（ジオニック）社が開発していた06R-2型は、06Fの後継機選定において、スペックだけで比較するならば、ほぼ間違いなく空間戦闘用次期主力MSとなっただろうといわれていたが、コストや生産性に問題があったため、試作機が4機作られただけであった。ある意味で「ザク」をベースとした機体の機能向上には限界に達しており、同機はチューニングや操作性において非常にデリケートな機体となってしまっていたのだ。一方のZIMMAD（ツィマッド）社の提案によるMS-09Rリック・ドムは、重力下装備を宇宙用に換装するだけで、目標値をクリアしていたのである。

本来ドムの開発目的は、重力下で実用レベルの機動性を発揮することであった。その上で、MSとして十分な機能を盛り込むため、その仕様は「重MS」



BEFORE ARMAMENT

YMS-09、いわゆるプロトタイプドムを起点とするドム系の機体は、ザクには及ばないものの、相当規模のバリエーションを産み出している。また、MS-14ゲルググに先行して、ボディ形状のブロック構造を採用するなど、それまでのOEM生産などによって培われた技術が存分に盛り込まれているのである。まず、YMS-09プロトタイプドム、MS-09ドム、MS-09Rリック・ドム、プロトタイプドムを改修する形で熱帯地方対応の装備が追加され、十数機程度生産されたYMS-09Dトロピカルドム、さらに形状改修を受けた上で、徹底した防塵処理とエアロフォルムを取り入れたMS-09F/TROPドム・トロペン、バックパック部分に大出力バーニアを追加装備したMS-09Gドワッジ、MS-09Hドワッジ改、第2期生産計画に基づく新規設計のMS-09R2リック・ドムツヴァイ、などである。ことにリック・ドムツヴァイは、重力下仕様機とのほぼ完全なコンパチ機だとされており、外観上の差異もほとんど存在しないと言われている。

実際には、ドムを空間戦闘用に改装するプランは、ドムの本格量産よりも一ヶ月以上前に立案されていたという説もある。これは軍主導で行われていたメーカー間にもたがう極秘のコラボレーションのようなもので、それは06R系の機体に、スラスタを宇宙用バーニアに改装した09の脚部を換装するという実験的手法によるマッチングの試験であったという。これによると、特にメンテナンスや生産工程の面で、当時すでに少量生産されていた06R-1Aの脚部ユニットより良好な結果が出ていたらしい。

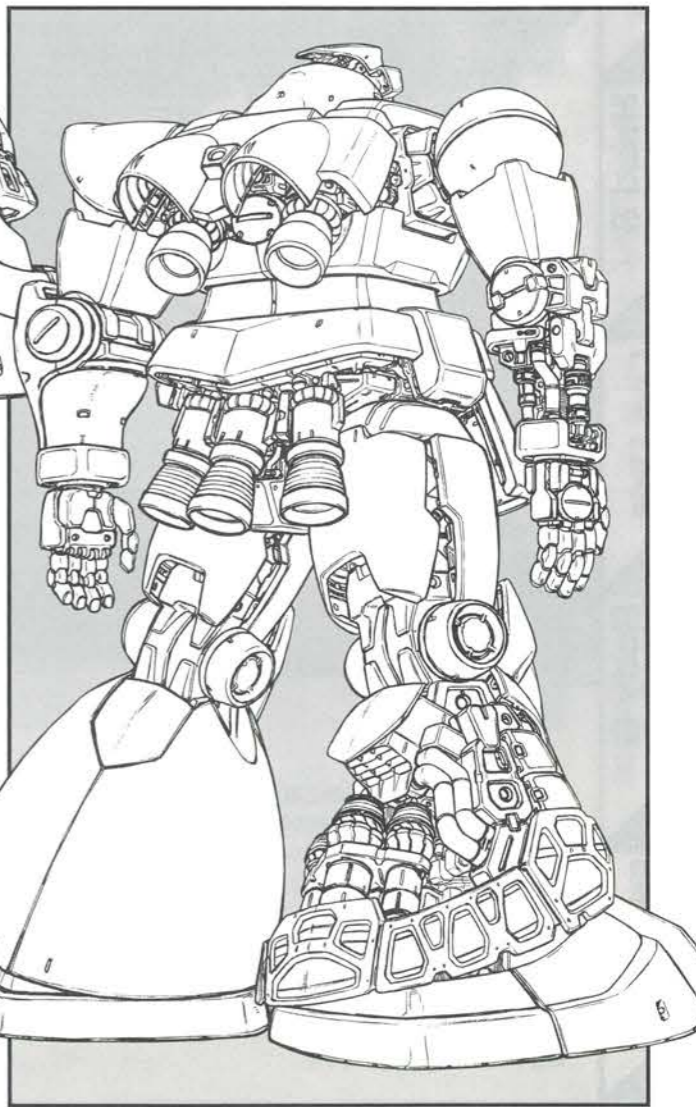
なお、ドムを初めて受領したのが「黒い三連星」部隊であったため、オデッサに散った彼らを讃える意味から、ドムの多くは彼らのパーソナルカラーで塗

装されるようになったというのが一般的な説だが、前述のマッチング実験機のカラーリングを流用しているのだとする説もあるようだ。

ドムおよびリック・ドムの携行するもっとも特徴的な武装がジャイアント・バズである。当時の火器としては最大級の破壊力を持つこの武装は、ある意味でドム系の機体を象徴する武装であると言える。ただし、当然のことながら、実際にはビーム兵器の採用も検討されていたようだ。ドム系の機体は、実効的なビーム兵器をドライブするほどのジェネレーター出力は持たなかったが、公国軍においては機体からのエネルギー供給を受けないタイプのビーム兵器もいくつか試作され、実戦に投入されたものもあるようだ。

その内のひとつが「ビームバズーカ」と呼ばれる武装で、ドズル麾下のリック・ドム部隊において試験的に運用されていたという記録も残っている。その破壊力は、後のゲルググ用ビームライフルを上回っていたと言われているが、エネルギーチャージに時間がかかる上、携行中の暴発事故なども多発したため、量産には至っていないと言う。ただし、歩留まりの良いデバイスも皆無ではなかったようで、真紅のリック・ドムが常用していたとする説もあるが、詳細は不明である。

ちなみに、ZIMMAD社におけるリック・ドム開発に際して、当初のコードナンバーはMS-R09であった。本来陸戦専用機として開発されていたドムは、ZIMMAD社内では「09」という機体コードそのものが「ドム」を指していたのである。自社開発による制式MSはこの機体が初めてであり、補助推進装置以外は、基本的に全ての機動装備が大気内で効率の良い熱核ジェットを採用していた。それを空間戦闘用に再開発することになったため、言わばロケット（=Rocket）タイプのドムという意味で、R09と表記されていたらしい。そのせいで、一時期は制式ナンバーそのものもMS-R09と表記されることが多かったようだが、第2期生産計画が発表される頃になると、公国軍開発局からの通達によって、表記の統一を計るためもあって、「R」は末尾に表記されるようになっていったらしい。



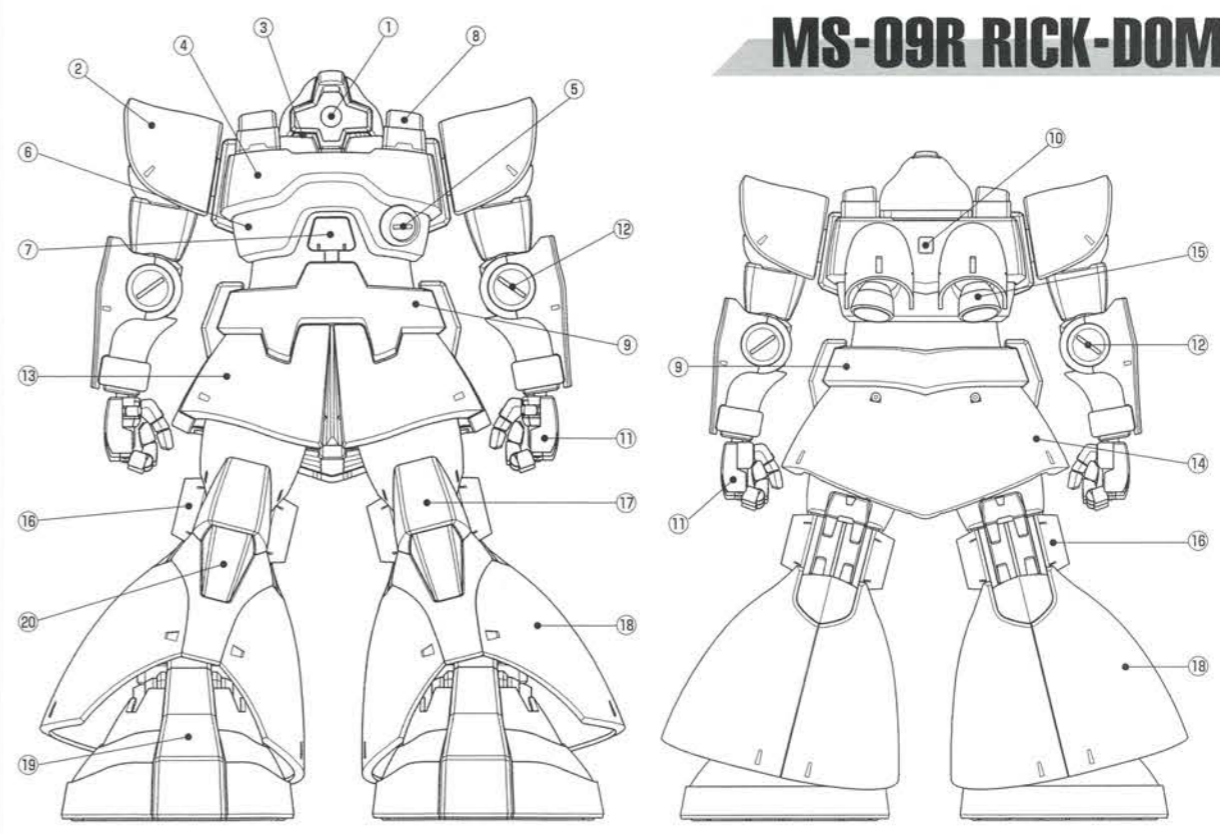
Mechanism illustration : BEE-CRAFT



宇宙世紀
U.C.0079年1月。地球に最も遠い宇宙植民都市サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んだ。公国軍は巨大な人型兵器MS（モビルスーツ）を投入し、宣戦布告と同時にサイド1、2、4を襲撃。コロニーのひとつを地球に落下させ地球環境に甚大な被害をもたらした。続く一カ月あまりの戦いで、当時110億を数えた総人口の約半数が死に至った。その後、公国軍は地上のおよそ三分の二を制圧した後、戦闘は長い膠着状態に陥った。同年9月。連邦軍が開発したガンダムとホワイトベースの出現により、戦局は変化しつつあり、公国軍もまた、陸戦用の重MSドムの開発に成功していた。

戦況は再び動き出していた。同年11月、連邦軍による一大反攻計画オデッサ作戦の展開によって公国軍の地上勢力の瓦解が始まった。それは同月下旬の連邦軍の本拠地であるジャブロー攻略戦の失敗によって決定的となり、戦場は宇宙空間へ移行しようとしていた。
公国軍は、開発の遅れていた次期主力空間戦闘用MSの代替機として、重MS“ドム”を宇宙用の“リック・ドム”に改修し、MS全体の高性能化と戦力の拡充を計っていた。リック・ドムは、期待にたがわぬ性能を発揮し、攻守にわたって健闘するものの、時代の趨勢を変えるには至らなかった……。

MS-09R RICK-DM



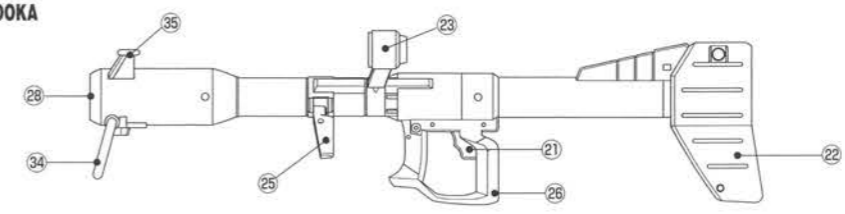
- | | | | | |
|------------------|------------------|---------------------|-----------------|--------------|
| ①モノアイカメラ | ⑧ショルダーブロックアーマー | ⑮メインスラスタ | ⑳マガジン | ㉑パーティクルチャンバー |
| ②ショルダーアーマー | ⑨ウエストジョイントアーマー | ⑯ニージョイントアーマー | ㉒サイトスコープ | ㉒アクセラレートバレル |
| ③パワーサプライヤー | ⑩オプションラッチ/ラッチカバー | ⑰ニーブロックアーマー | ㉓エネルギーファイヤーケーブル | ㉓ロッドヒルト |
| ④プレストアーマー | ⑪マニピュレーター | ⑱レッグアーマー | ㉔フォアグリップ | ㉔ヒートロッド |
| ⑤スプレッドビームジェネレーター | ⑫エルボージョイントアーマー | ⑲オブジェクトセンサー/スタビライザー | ㉕グリップ | ㉕ビームフォーカスマズル |
| ⑥フロントパネル | ⑬フロントスカートアーマー | ㉑スパティアルセンサー | ㉖テータリングケーブル | ㉖キャリングハンドル |
| ⑦コクピットハッチ | ⑭リアスカートアーマー | ㉑トリガー | ㉗マズル | ㉗サイトセンサー |

注) この機体は、グラナダ工廠のMS-09生産ラインが、U.C.0079年11月上旬からMS-09Rに転換されてから量産された機体内の、いわゆる“ロングスカート”と呼ばれる後期バージョンです。

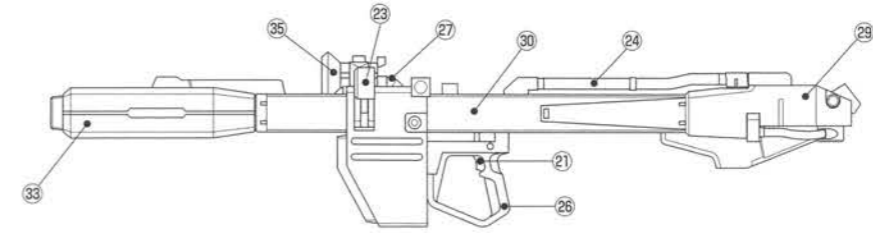
HEAT SABER



360mmGB05R BAZOOKA



BEAM BAZOOKA



パーツリスト

【使用素材】成形品(スチロール樹脂:PS)、(ポリエチレン:PE)、(ポリキャップ)(ポリエチレン:PE)

Aパーツ ※⑩は使いません。

Bパーツ

Cパーツ

Dパーツ ※⑩は使いません。

Eパーツ

Fパーツ

Hパーツ

Iパーツ

Jパーツ(2枚)

Kパーツ(2枚)

PC-121

※P.C(A)2個、P.C(B)5個、P.C(I)1個、P.C(K)2個は予備です。
P.C(D)、(F)、(N)、(O)は使いません。
マーキングシール.....1枚
ガンダムデカル.....1枚
ジュエルシール.....1枚
(ポリウレタン: PUR)

注意

お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が悪く飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

【組み立てる時の注意】

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。

■モノアイ

A(18) F(14)

■頭基部

P.C(A) F(7) F(3)

■モノアイ・カバー

D(7) A(21)

■指

※各4個作ります。

右: A(8) (左: A(9))

右: A(11) (左: A(12))

■肩

※2個作ります。

J(6) O(8)

M(6) (向きに注意!)

■ヒジ関節

※2個作ります。

J(14) J(13) P.C(K)

■上腕

※2個作ります。
※M(2)は少し斜めに
して奥まで入れます。

M(2) K(6) K(7)

1 Head (頭)

■頭基部

P.C(M) I(5)

■モノアイ・カバー

マーキングシール(2) F(4)

2 Shoulder Armor (ショルダーアーマー)

I(4) D(4) I(2) I(1) D(4) I(3)

3 Manipulator (手)

■右手

E(3) ■指(右) A(15)

■左手

A(14) ■指(左) E(4)

4 Arm-1 (腕-1)

■前腕基部

※2個作ります。

■ヒジ関節

K(9) K(10) P.C(L)

■前腕

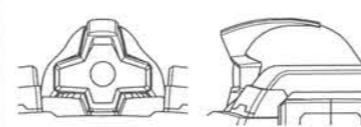
※2個作ります。

K(13) K(14)



HEAD UNIT DO-H09/S.U011

MS-09Rのヘッドモジュールは、基本的に09のものそのまま流用されている。モノアイのレール以外のユニットは基本的にザクやグフと同等の機能を持っており、それが高密度に実装されているだけなのである。

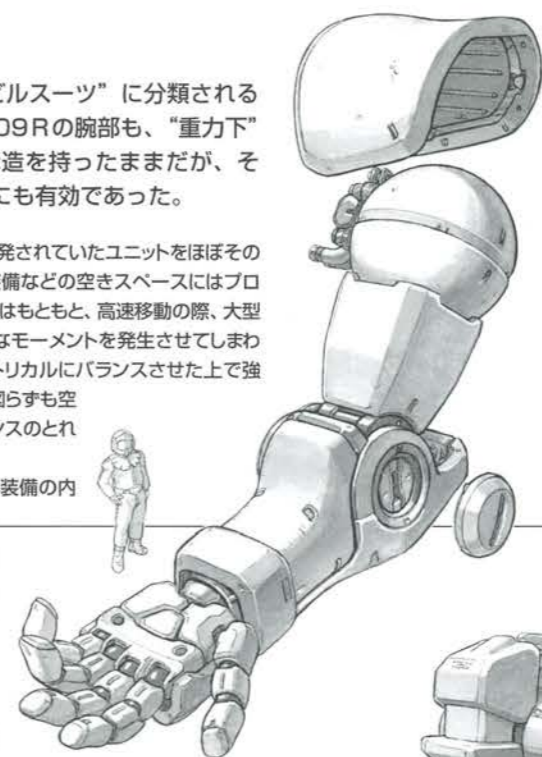


MS-09系の機体の特徴である頭部形状は、MS-07系の試作機に採用された二次元軌道をもつモノアイレールの開発によるもの。これによって地对空戦闘などにおいても上方視界を確保する事ができ、より地上戦に対応した設計が施されているといえるだろう。また、補助センサーの高性能化に伴い、側方視界はモノアイを使用しなくとも十分に捜索できることもあって、主センサーを側面に振り向ける必要がなくなったのだとも言われている。また頭部と胸部が一体化されている構造は、いわゆる被弾率を軽減し、敵の銃弾などを可能な限り跳弾させるためにも有効な手法であったようだ。

ARM UNIT DO-A09/S.U007

MS-09は、結果的に“重モビルスーツ”に分類されるほど大型の機体となった。MS-09Rの腕部も、“重力下”という環境に対応したトルクと構造を持ったままだが、それは無重量空間における機能向上にも有効であった。

MS-09Rの腕部ユニットは、09用に開発されていたユニットをほぼそのまま使用しているが、オミットされた防塵装備などの空きスペースにはプロペラントタンクが装備されている。この機体はもともと、高速移動の際、大型のシールドなどの偏った装備によって余剰なモーメントを発生させてしまわないように、機体の装甲そのものをシメトリカルにバランスさせた上で強化する方向で設計されているため、それが図らずも空間戦闘においても有効に働き、非常にバランスのとれたMSになったのである。
逆に、各種スラスターなどの高速移動用装備の内

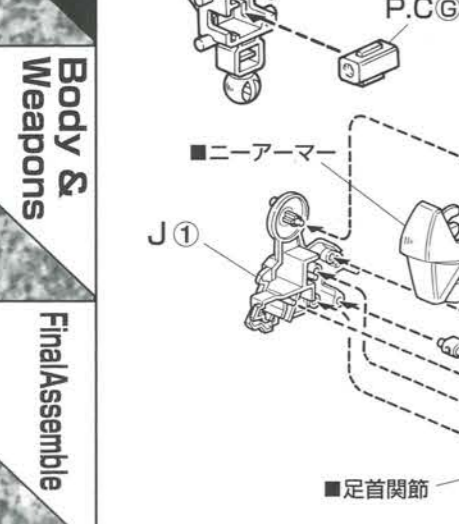
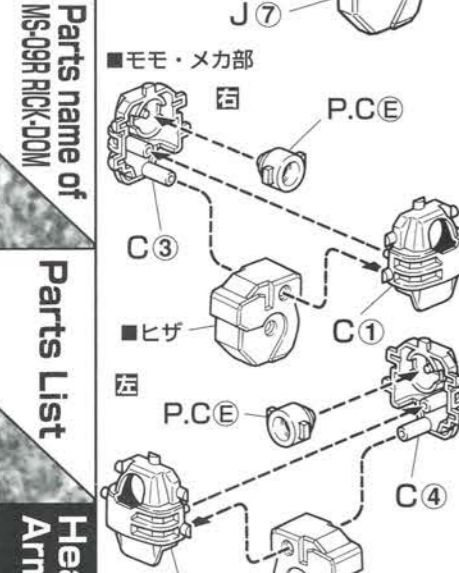
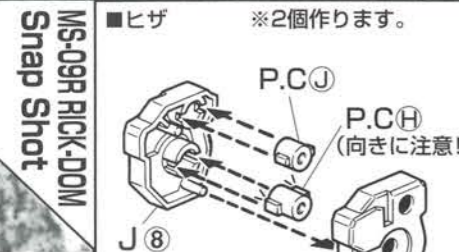
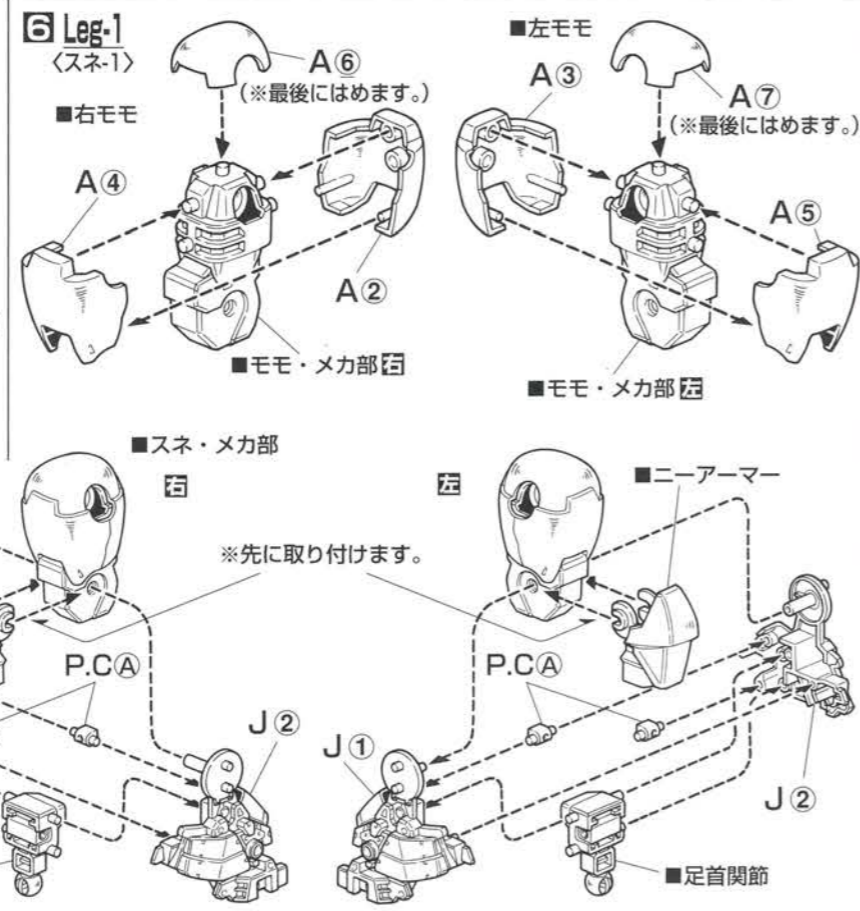
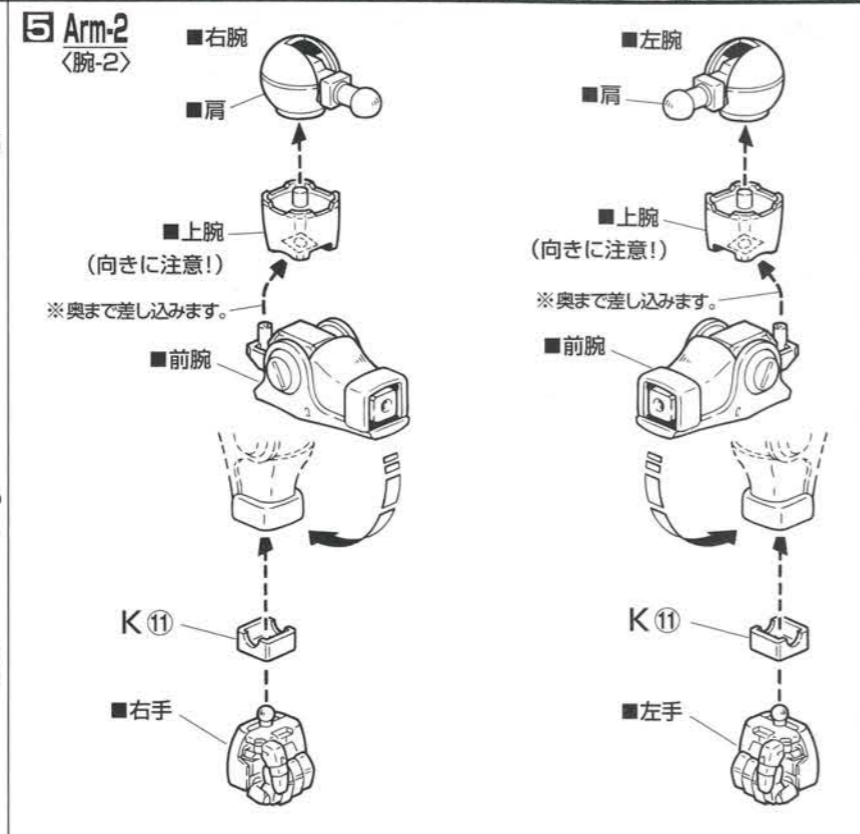
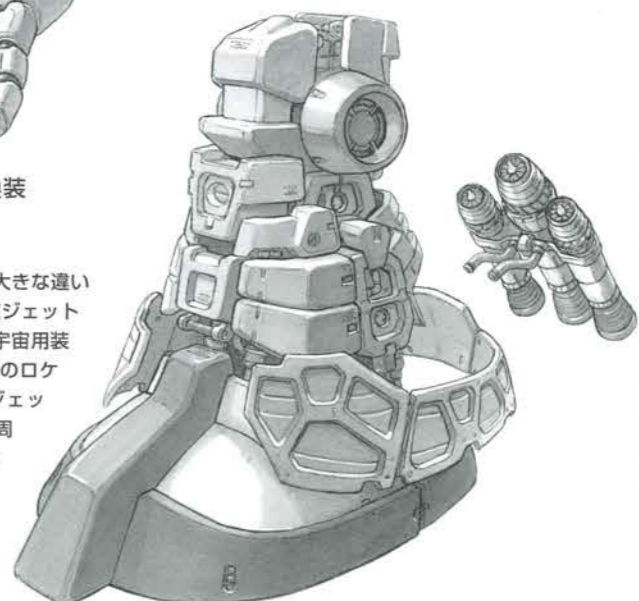


装と、それに伴う構造強化などにより、フレーム自体に既存の機体を上回る堅牢さが求められていたため、リック・ドムはザクを上回るヘビィデューティーさを手に入れたのである。さらに、専用武器とも言える“ジャイアント・バズ”の装備が確認していたため、それを支え、また、十分に取り回し可能なトルクを持つユニットとして、腕部自体のポリウムが大きく増大することになったのである。また、直接突撃に使うという想定もあったらしいが、空間戦闘ではその機会もほとんどなかったようだ。

LEG PARTS DO-L09R/S.U003

MS-09Rの脚部は、MSが重力下を高速で移動するための試行錯誤を繰り返した末に採用された構造だったが、その内部容積には十分な余裕があったため、熱核ロケットへの換装にも余裕をもって対応できた要因となっている。

外見からはほとんど判別できないが、MS-09と09Rの最も大きな違いは脚部構造に集約されている。09では推進用のスラスターや熱核ジェットユニット及びそのインテークなども装甲内に装備されていたが、宇宙用装備に換装される際、足下のホバーユニットはブロックごと大口徑のロケットエンジンとして再設計され、ソノ部分のスラスターも熱核ジェットから熱核ロケットに換装されている。加えて、主にインテーク周りの吸気機構や防塵装備のほとんどが不要となったため、代わりに大容量のプロペラントタンクなどが装備されている。また、大腿部の構造も“重力下”稼働を保障するための補助動力装備が実装されていたブロックごと、推進剤のリザーブ装備などに換装されている。





TEXAS COLONY

U.C.0079年12月14日、キャメル艦隊を撃破し、続く19日、中立コロニーのサイド6宙域でコンスコン艦隊を撃破したホワイトベース部隊は、同月21日、連邦軍第3艦隊との合流のため予定宙域に向かう途中、その中間にあるかつてのサイド5、ルウム圏の暗礁宙域に浮かぶテキサスコロニーに停留していた。ルウム戦役以降、遺棄されていたはずのこの観光用コロニーの周辺宙域で、敵機らしい機影が確認されたからだ。このコロニーは、公国軍によって秘密兵器のトライアルに使用されていたのである。兵隊に出たガンダムは、敷設された地雷や地雷に悩まされながらも内部に潜入する。その頃、オデッサ以来、ガンダムに煮え湯を飲まされ続けてきたマクベ大佐は雪辱に燃えていた。僚機のリック・ドムを率い、新鋭機ガンダムを駆って、自らガンダムに戦いを挑もうとしていたのだが!?

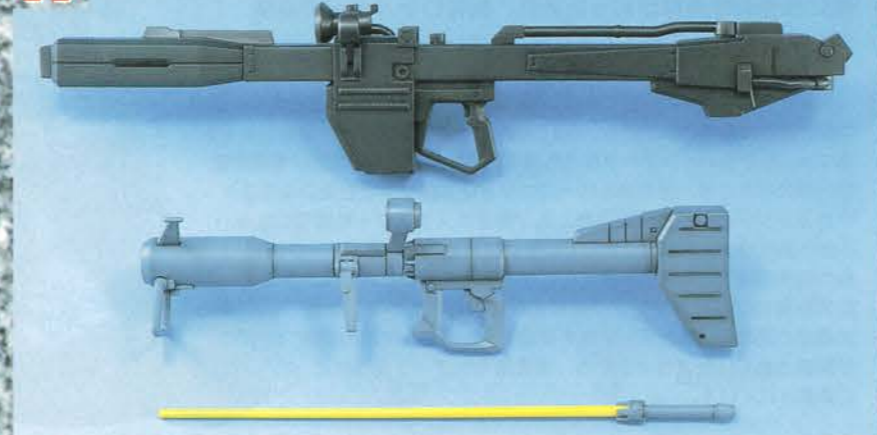


MARKING



▲ 機体各部をリアルに再現するナンバー表記、注意書き等のマーキングシールをセット。形式番号等のマーキングを要望の高いガンダムデカールで再現しました。

WEAPONS



BEAM BAZOOKA

U.C.0079年12月。公国軍は8ヶ月に及ぶ膠着状態を利用して、宇宙における戦力の拡充に奔走していた。空間戦用MSの開発と増産に加え、MS用のビーム兵器の開発にもようやく目途が立った。その矢先、連邦軍は宇宙に撃って出た。オデッサ、ジャブローで、その威力を遺憾なく発揮した「木馬」と「白い奴」が、再び宇宙に進出して来たのだ。同年12月13日夕刻。連邦軍の主力艦隊出撃のための陽動部隊としてジャブローを発した「木馬」は、追撃するシャアのサンジバルを尻目に、待ち受けるキャメル艦隊との戦端を開いた。3隻のムサイを率いるドレン大尉と歴戦の勇士であった。所属のリック・ドムには、開発されたばかりのビームバズーカを装備した機もあったと言われている。しかし、挟撃を目論むシャアの到着を待たず、キャメル艦隊は瞬く間に全滅してしまった。木馬こと「ホワイトベース」と白い奴「ガンダム」は、まさしく、公国軍にとっての脅威となっており、宇宙への帰還を果たしたのである!!



RICK-DOM IN A CONFUSED FIGHT

U.C.0079年12月30日、公国軍のソーラ・レイ斉射によって全艦艇の三分の一を喪失した連邦艦隊は、数時間の内に態勢を立て直し、第二、第三大隊が縦一字隊形でア・バオア・クー宙域に侵入を開始。ルザルを旗艦とする艦隊はホワイトベースを目標として集結し、側面からア・バオア・クーに攻め込もうとしていた。人類史上始めて以来の大規模な宇宙戦争の幕が切って落とされた。しかし、開発されたばかりの新鋭機ゲルググは数が足りず、ザクはすでにシムの敵ではなかった。辛うじてリック・ドムが公国軍を支えていたと言っても過言ではない。だが、三割以上の艦艇を失ったとはいえ、連邦軍の物量は圧倒的だった。加えて、公国軍はすでに人的資源において連邦に敗北していた。学徒動員を始めとする窮余の策は、その決定的な国力の差を覆しはしなかったのである。そして……

PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

- 腕・脚などの塗装色。
パープル(50%) + ホワイト(50%) + 黒少量
- 肩・腰スカート・足底などの塗装色。
ミッドナイトブルー(80%) + ブラック(20%)
- 胸・背部などの塗装色。
ニュートラルグレー(90%) + パープル(5%) + レッド(5%)
- 武器などの塗装色。
ミディアムブルー(70%) + ニュートラルグレー(30%)
- 関節部などの塗装色。
ニュートラルグレー(80%) + ミッドナイトブルー(20%) + タークグレー(20%)
- モノアイカバー・スカート裏などの塗装色。
シャインレッド(90%) + レッド(10%)



REAR VIEW



FRONT VIEW



▲ 腹部コクピットを中心とする内部メカをリアルに再現。

▼ 背部装甲は、脱着式で内部メカニクやバーニア等、細部ディテールを表現。

▲ レッグカバーは、脱着式で、フレームやジェットユニット等、内部メカニクを再現。

▲ 大型化されたリアスカートをはじめ、内部バーニアユニットも再現。

BODY UNIT

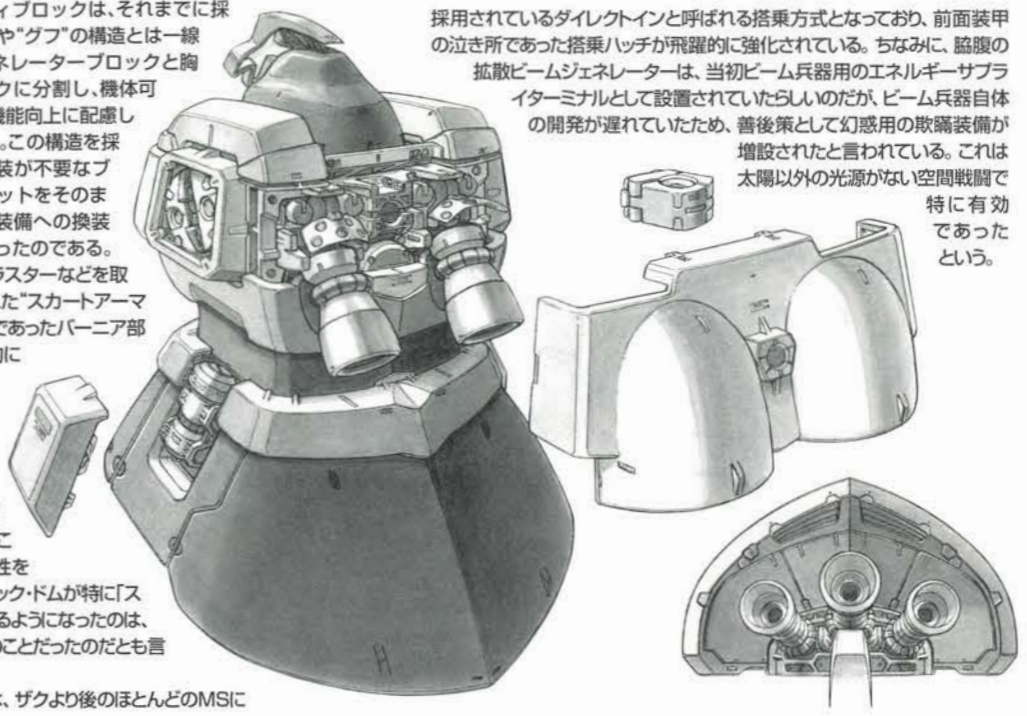
MS-09Rのボディユニットは、09と比較してバックパックのバーニアユニットが大型化され、“スカートアーマー”と称される腰部ユニットもスラスターの高出力化に伴ってさらに大型化されている。

MS-09のボディブロックは、それまでに採用されてきた“ザク”や“グフ”の構造とは一線を画した物で、ジェネレーターブロックと胸部、腰部を別ブロックに分割し、機体可動やメンテナンス、機能向上に配慮した設計となっている。この構造を採用していたため、改装が不要なブロックは既成のユニットをそのまま使用でき、宇宙用装備への換装も圧倒的に容易であったのである。

特に、構造的にスラスターなどを取り囲むように設計された“スカートアーマー”は、MSの泣き所であったバーニア部分の被弾率を圧倒的に低減させた上、09Rの量産に伴ってさらに大型化され、下半身ユニットそのものが、全体として巨大なひとつの集約型バーニアとして機能することで、圧倒的な機動性を機体を与えている。リック・ドムが特に「スカート付き」と呼ばれるようになったのは、この機動性を指してのことだったのだも言われている。

コクピットブロックは、ザクより後のほとんどのMSに

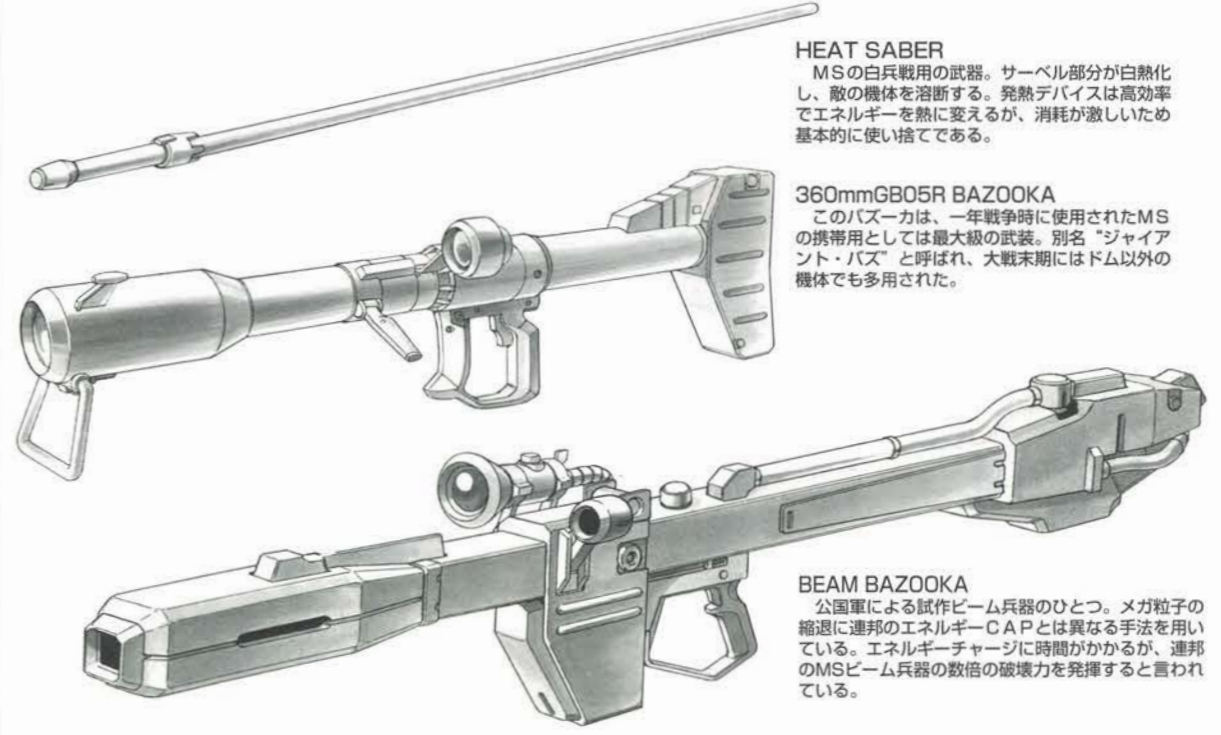
採用されているダイレクトインと呼ばれる搭乗方式となっており、前面装甲の泣き所であった搭乗ハッチが飛躍的に強化されている。ちなみに、脇腹の拡散ビームジェネレーターは、当初ビーム兵器用のエネルギーサブライターミナルとして設置されていたらしいのだが、ビーム兵器自体の開発が遅れていたため、善後策として幻惑用の欺瞞装備が増設されたと言われている。これは太陽以外の光源がない空間戦闘で特に有効であったという。



WEAPONS

HEAT SABER Type7
H&L-GB05R/360mm
BEAM BAZOOKA Ex-T2-2

MS-09ドムが使用する武装のうち、もっとも特徴的なものが、戦艦をも一撃で撃沈すると言われるほどの威力を持つ“ジャイアント・バズ”である。この武装を始めとして、ドムにも様々な兵装が供給されているが、リック・ドムの実戦投入に前後して、試作されたビームバズーカなどを装備する機体もあったと言われている。

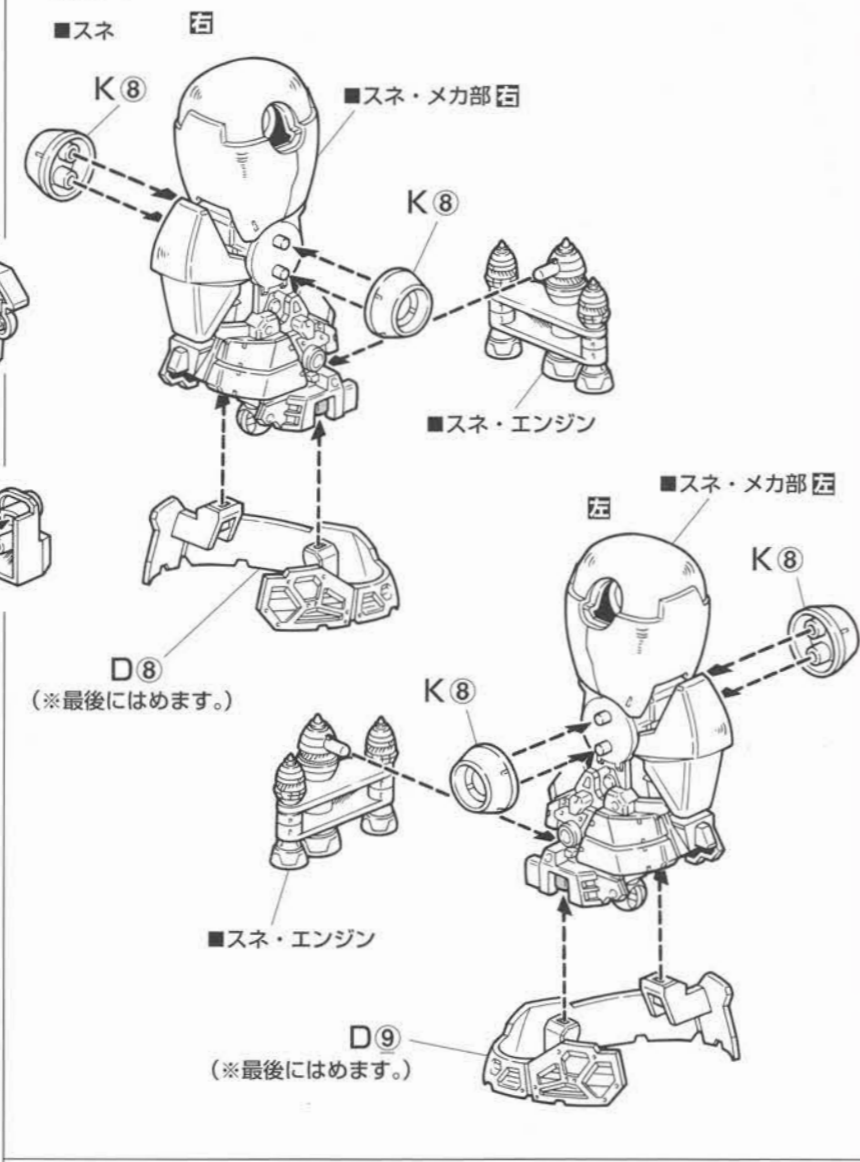


HEAT SABER
MSの白兵戦用の武器。サーベル部分が白熱化し、敵の機体を溶断する。発熱デバイスは高効率でエネルギーを熱に変えるが、消費が激しいため基本的に使い捨てである。

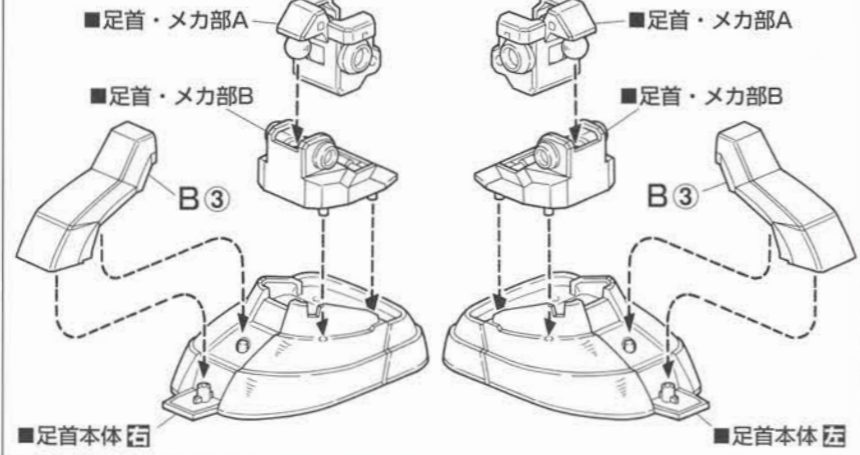
360mmGB05R BAZOOKA
このバズーカは、一年戦争時に使用されたMSの携帯用としては最大級の武装。別名“ジャイアント・バズ”と呼ばれ、大戦末期にはドム以外の機体でも多用された。

BEAM BAZOOKA
公国軍による試作ビーム兵器のひとつ。メガ粒子の縮退に連邦のエネルギーCAPとは異なる手法を用いている。エネルギーチャージに時間がかかるが、連邦のMSビーム兵器の数倍の破壊力を発揮すると言われている。

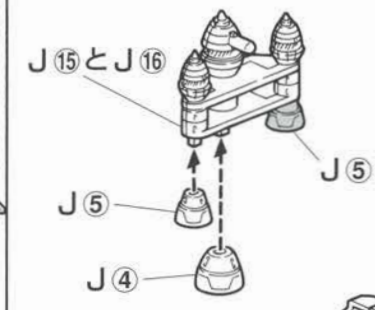
7 Leg-2 <スネ-2>



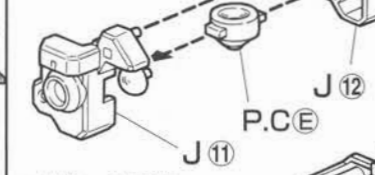
8 Ankle <足首>



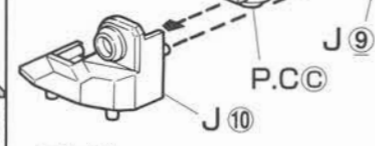
■スネ・エンジン ※2個作ります。



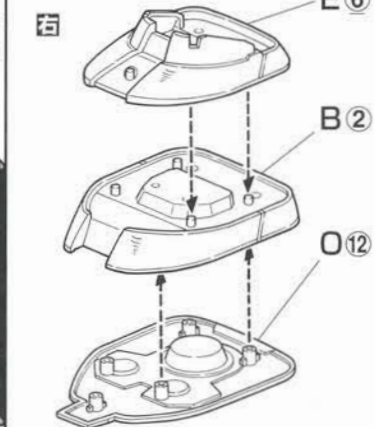
■足首・メカ部A ※2個作ります。



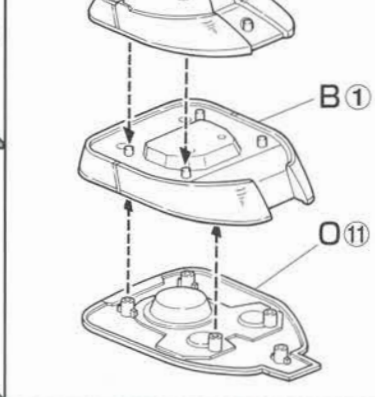
■足首・メカ部B ※2個作ります。

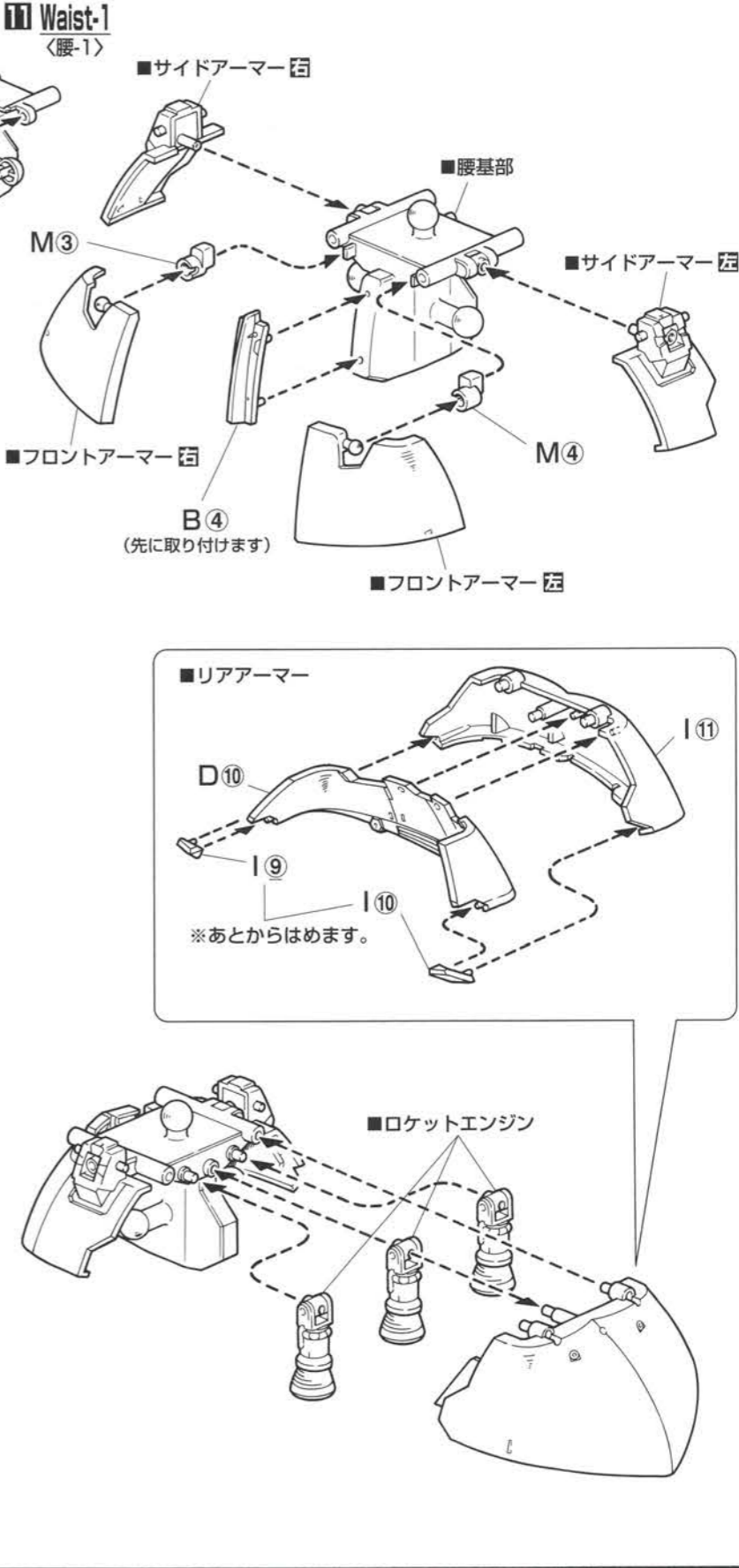
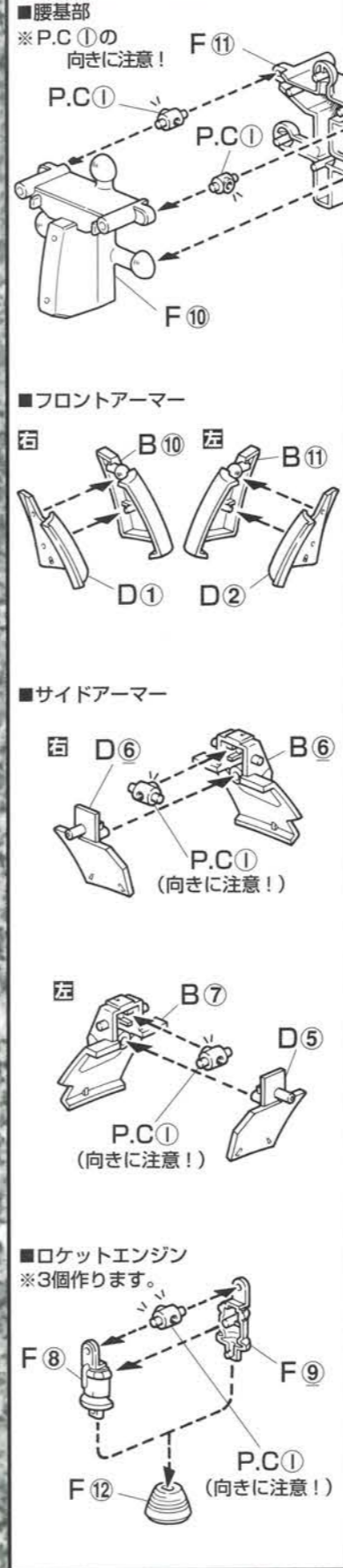
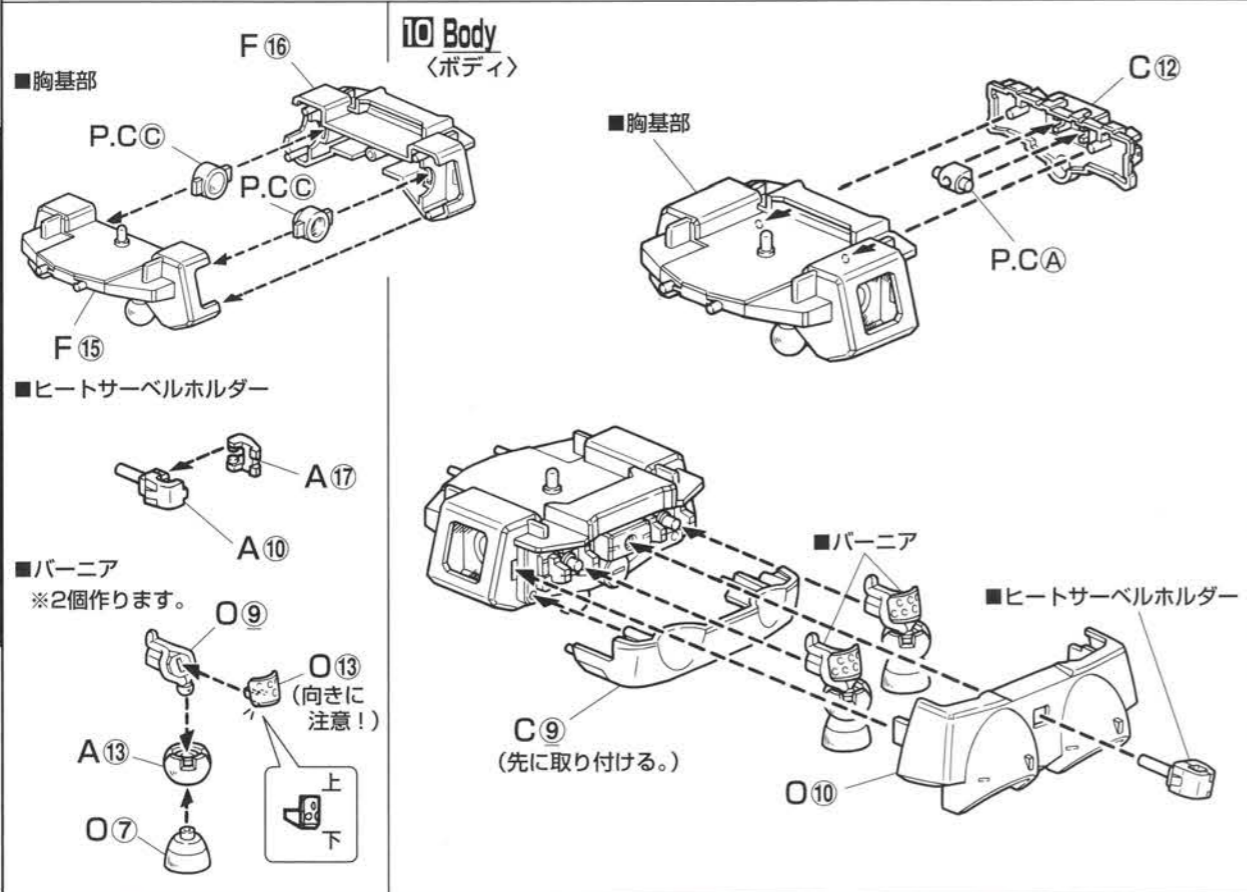
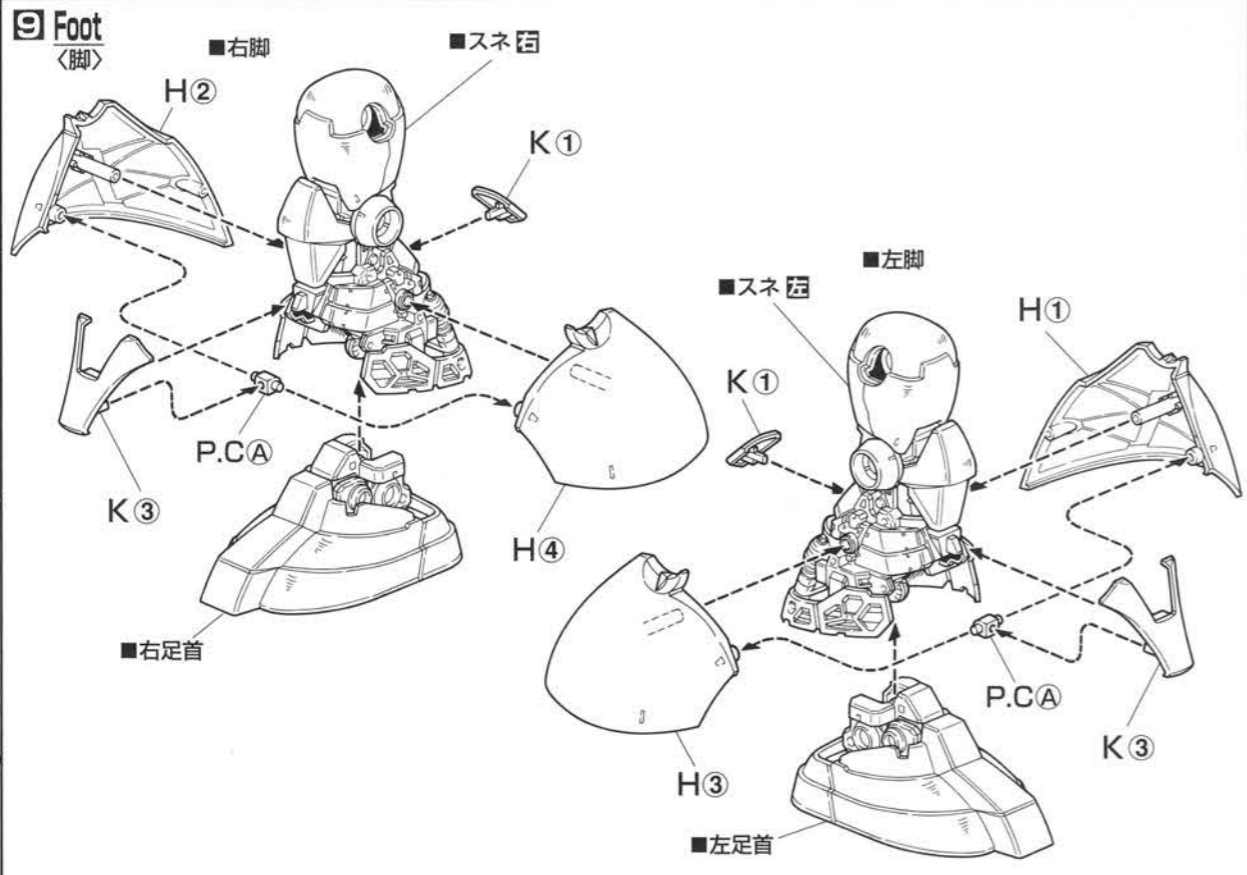


■足首本体

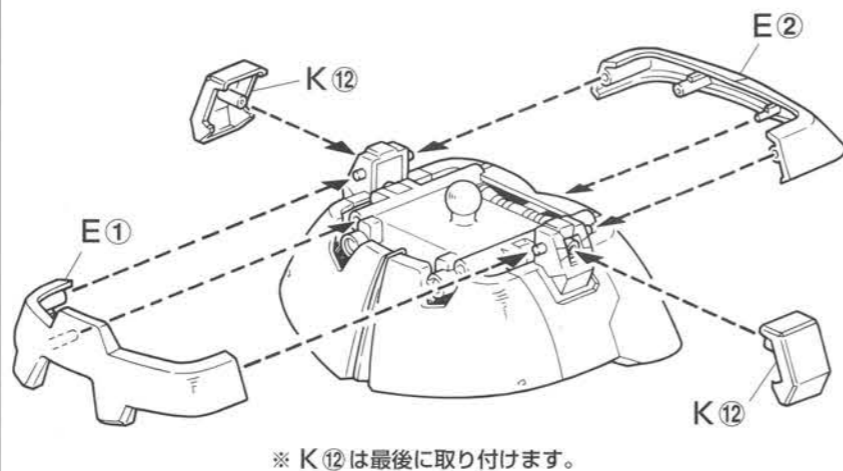


■足首本体



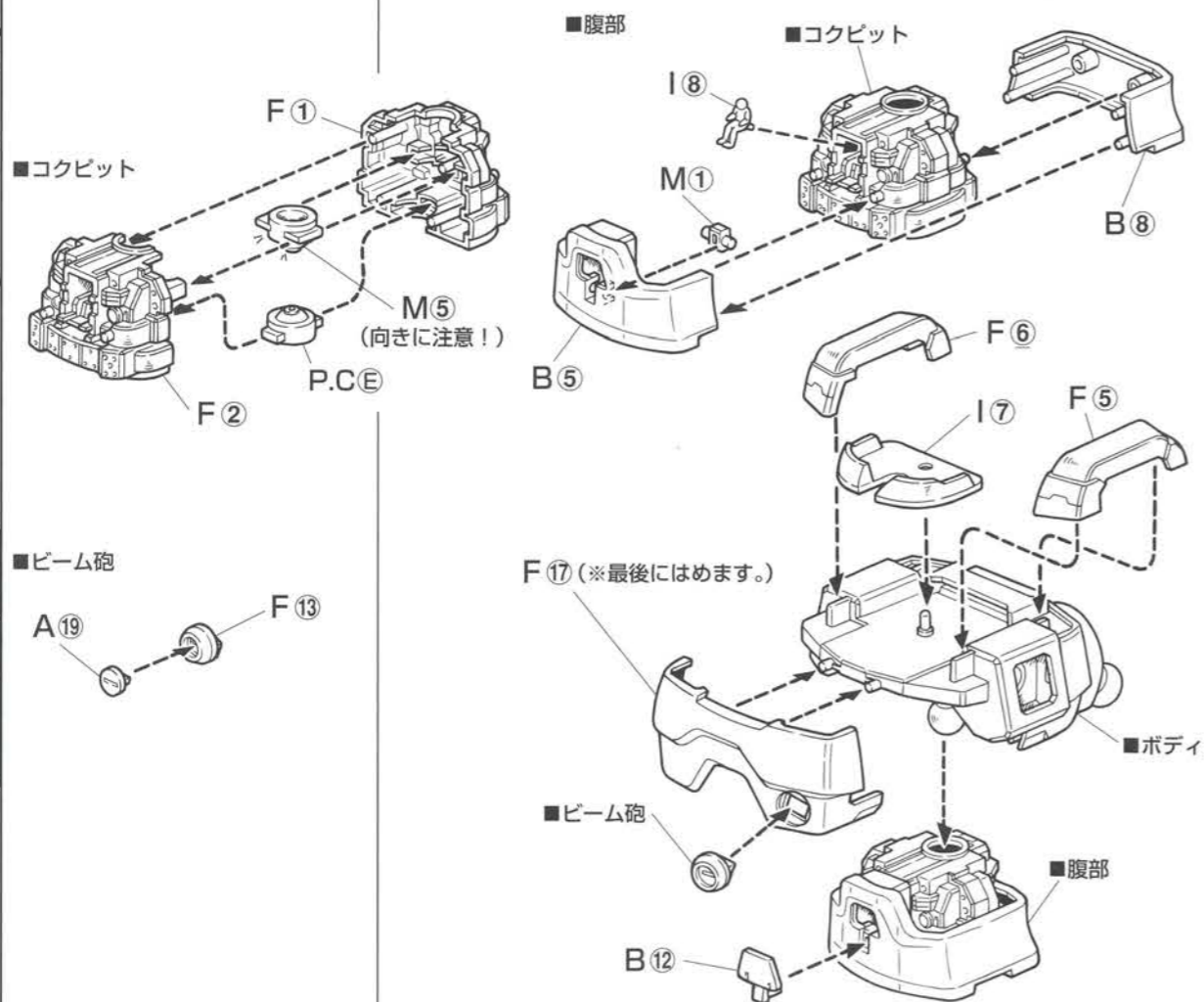


12 Waist-2
〈腰-2〉

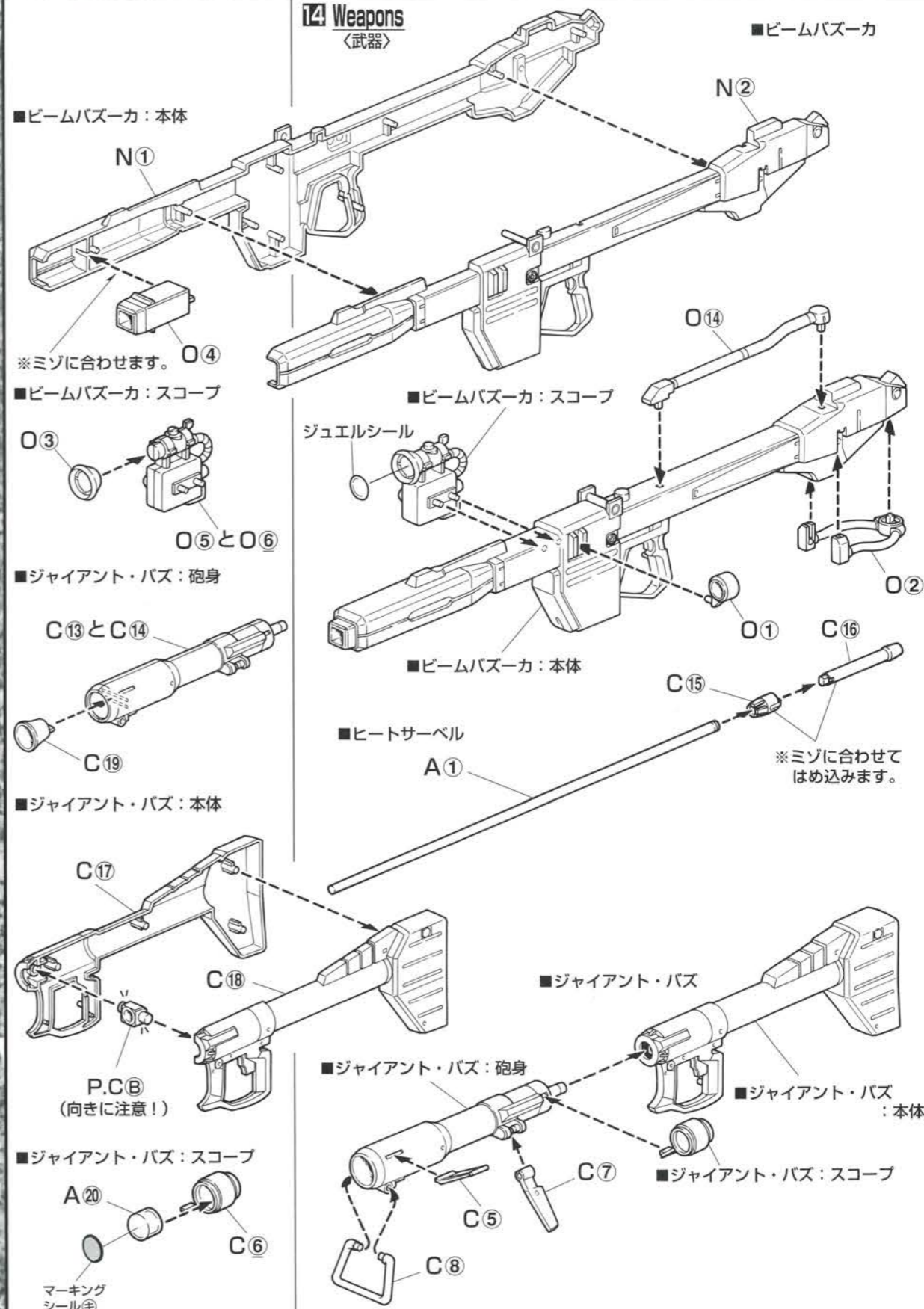


※ K12は最後に取り付けます。

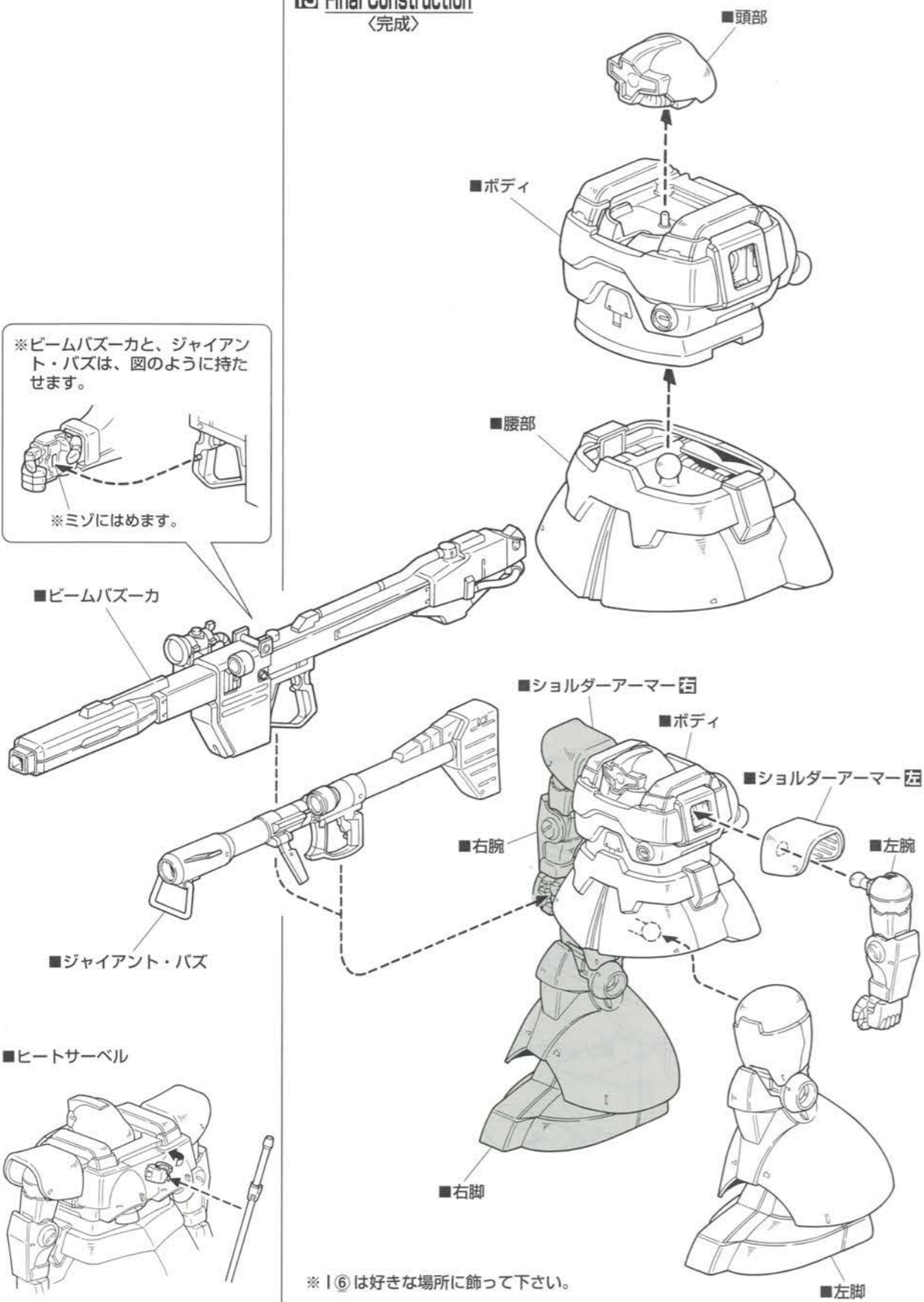
13 Body Assembly
〈ボディの組み立て〉



14 Weapons
〈武器〉



15 Final Construction
 <完成>

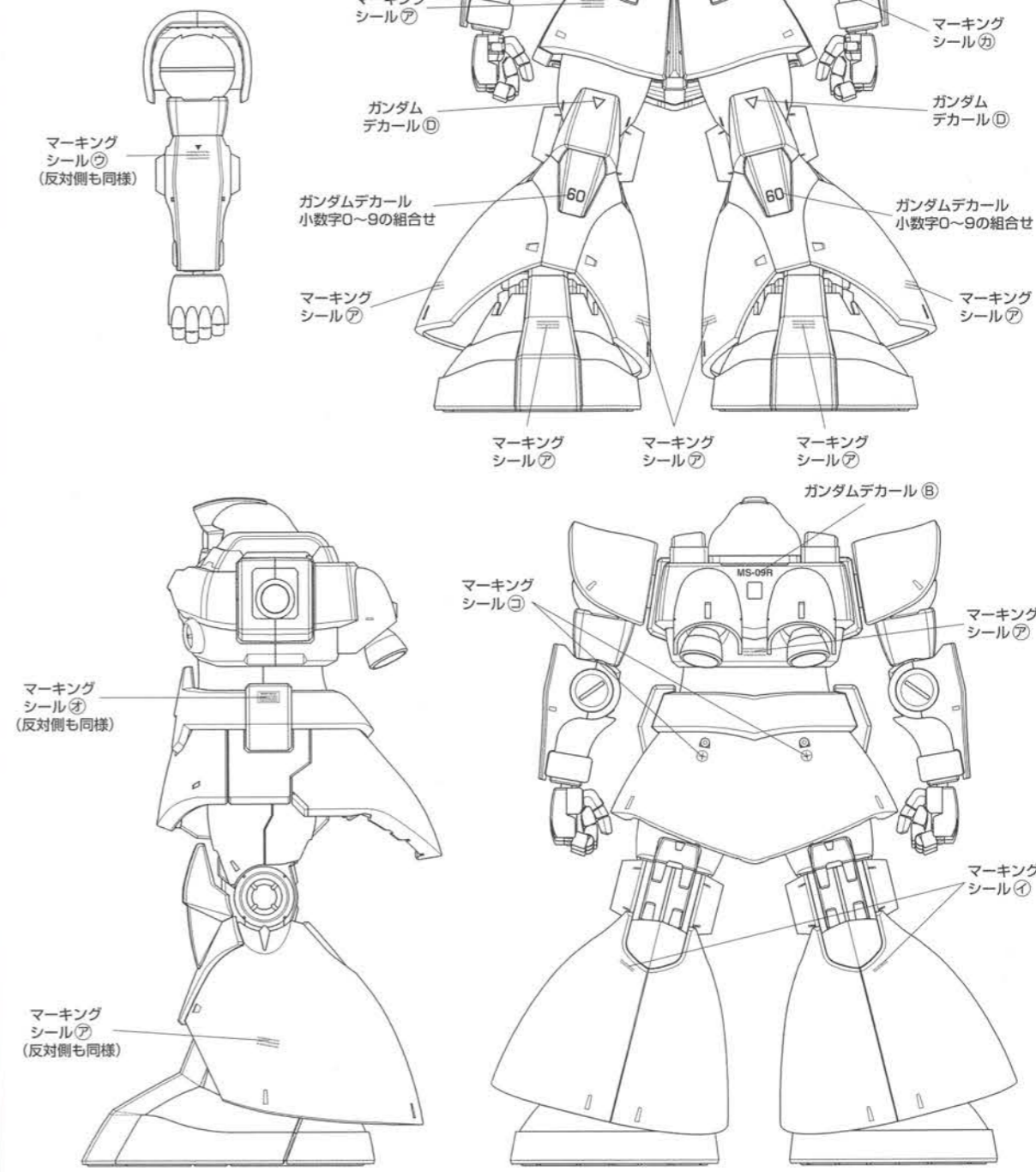


※ビームバズーカと、ジャイアント・バズは、図のように持たせます。
 ※ミゾにはめませす。

Seal
 <シール>

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはり位置を確認してください。

- ガンダムデカールのほりかた。
 1. 転写するマークを大きめに切ります。
 2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすりつけます。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。